

経過～テーマ

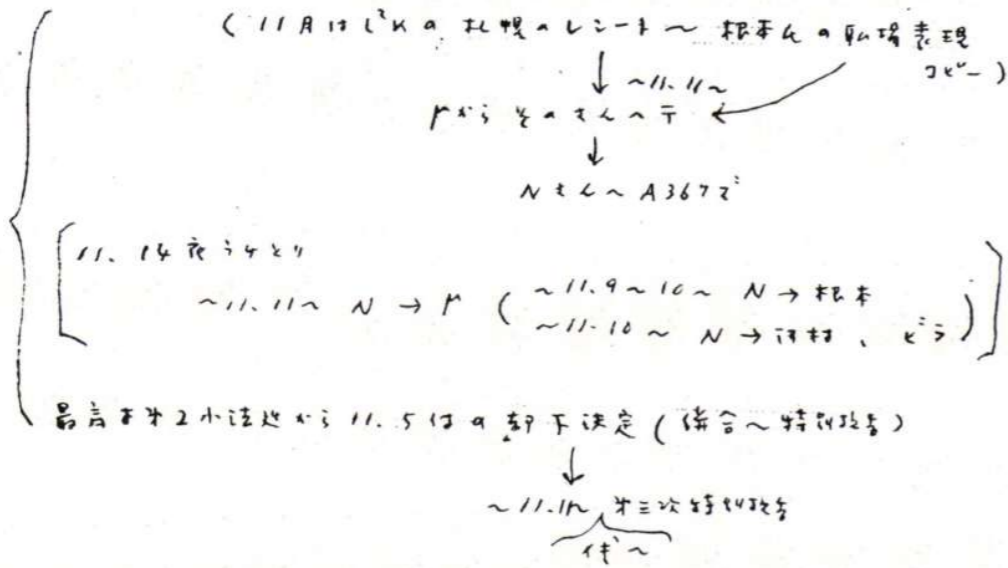
84. 11. 10

ム区から室長へ

山本氏のヒラ草案について意見表明

- 数枚とし、それぞれ一枚にまとめる。
- 総会の一瞬の現場性に匹敵する言葉の連発を。
- 「解体」、「粉砕」の語法を止揚すべき。
- 「自滅」、「自壊」として300～枚コピーをせよ。
- 安易に用いるものがない (他動詞性→自動詞性)
- (教団内経路が最もよく用いる)
- (教室・教壇の中「政治権限」として「...」によって組織的)
- とよむ時の「ソ」による概念

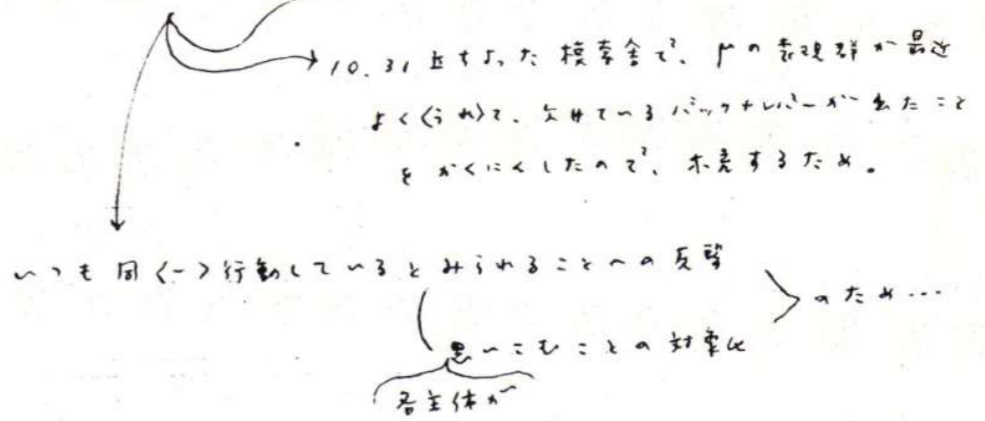
六日～根本氏から～11. 7～8～付の付



11. 11

山本氏とは別姓相対してム区から東京へ出立。

その動機へは教団本部の人たちの
感性を批判的に
対象化するため。

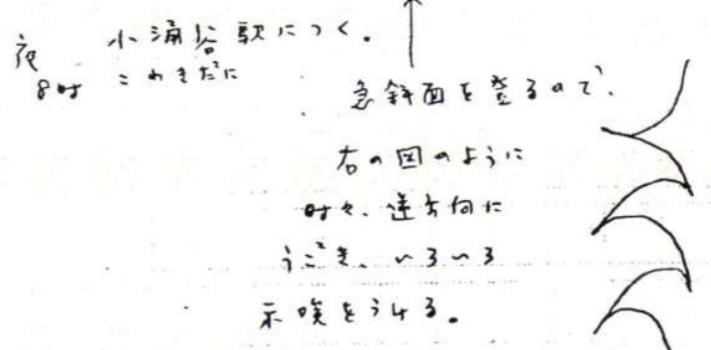


午後、模範会にゆくと「自主ゼミ」してから、日曜にだけ体制的に
許容される「歩行者天国」を歩いて、新宿小田急のり場へ。

このキリスト教的イデオロギイは「自体的
ム区」がダイク!

特急券は全額取り出されてくるが、これにありませぬ。あつてはる本で
(座席指定) 小田急へ行く。

箱根登山鉄道で、ガタゴトと30～分あり。



途中に河村氏の住居あり。
(厚木) 駅近く

小田急が前へうしろへたり
線へうしろへたりして
方向感覚が「矢張り」
言底 50分を(む)と(む)
してゐる。

駅前に食堂があるから、そこで食事してから宿舎へ向こうと思

ってんだが、何と！あたりは

まっくらな無人駅で、トイレは

あるが食堂など「さー！売場も

(なくて)。



(東京の高橋女は「11夜はとまり
た4で、食事不要」と予知してゐるこ
と山本女からきいていたのだ。)

宿舎の中にいるTel. ホックスから宿舎(高橋女は教団左派はいつも

教団主流のときはホテル小涌園をさけて、へき地！にある小涌

右派 寮とったかしの千条旅館に泊まることにして、
すげ

ここに泊まる左派は、「さすし派」とよばれてゐることを後で知る。)

へTel. し、道筋をきき、食事はできるかときくと、おぼろさんとい

人が、「まっくらな山は、すげ判別です。予知がさうからできません。」と云ふこと。

ポイントに残って来たアメ(1区の子どまたちから、すい合前にもらった
アメ、偶然のこゝろで)を口に入れ、くわがかに分岐してゆく道

(とれどれ暗い霧の中に、所々、宿屋らしき家がみえる)の一本で

くまっくらに>歩んでゐると、さぞか谷の中にありていき、とこに毛

刈がみえなくさす。積こめかたがあるのだ、うけで照らすと「がーっ積、

とがんであり、異次元に迷ひこんだかんじ。(とらばらやイメー)

とあるがたんに川をたどり、足がぬかる。雨こめかたがふり、全身がぬれてくる。それではくまっくらに>行って

そこに泊まろうと決心して、斜面を登り、すべりおちたりにしてゐると

流るるに灯がみえ、湯気の立つ排水が、こゝろと音を立ててゐる

建物に到着、ここに泊めてもらおう、と入口へまゐると、何と「千条、

とがんである!

以後の夜は12
↑ 11.14~15
①~

物音で出てきた、おぼろさんには、「とらきTel.した者ですが...」という

ぬれで汚れたTシャツで、「1時間以上歩いてゐて、ここがたから、よそへ

泊ったと思つてゐた。」と云つて、フロ場へ案内してくれり。

他にだれも泊つてゐるゝあて。(23時、道を最短距離でくると~10分)

温泉の中で、泳いでりして

出てくると、おぼろさんが、一度くまっくらに「まっくら」行けり!

宿2本とコロケ6個をもつてきて、「この山が取りませんが...」と云つてゆく。

↓ (1分以内でたべた)
↓ (3分以内に入れた)

フロンにはよこたわつてゐると夜中に山本女と高橋女がくる。

視の前記の会計に出るための新大阪へくると書記(辻)

に会い、京町までくると詩長(後宮)に会つたこと! 二人とも山本女

に「会場をフーヤする、といううツヤがあるが本当にやるのか?」と云つてゐる!

山本女もトモ、行かには

ひとく、つかれてゐるので

強ど話さすへま、

ぬむりこくしてしまふ。

(~10分程度) 谷町、榎田、大塚
の他に、聖尊、スガ、小田原、新谷と

ホテル小涌園にへつてきて会計中に
ここへきてみた、と云ふこと。

12~14 報告の
方針については、左派

がへつてこゝろにきてと
らま、おぼろさんに出す筆袋が

「へ」にあり、おぼろさんには
知れり、といううツヤあり。

高橋女も~10分山本女へTel. して
漫壇と新行のめがせて、判定撤回

を迫る、と云つてゐたにまがが山はす、
「今夜はいい出せる雰囲気だ」と云ふこと。

11.12

明日、次のように傍聴要求書を作成。(コピーとします)

日本基督教団議長殿

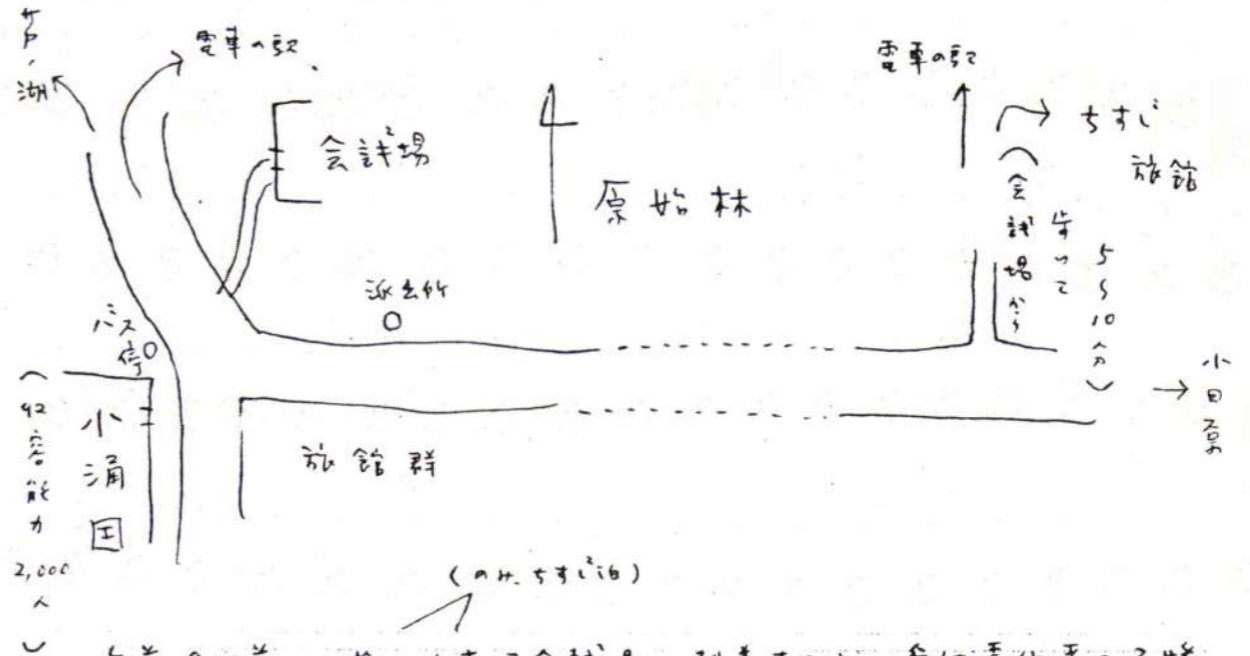
教団総会の傍聴を許可して下さるようお願いいたします。

- 理由
1. 現在の状況の中で教団総会がどのようなおこなわれるか確認するため。
 2. 教解検定問題を含む議題への当事者であるため。
 3. その他必要に応じて口頭で補充します。

84.11.12

松下 昇 (印)

- 註
- ・ 山本は11に出、後宮から、今日は信徒以外に傍聴を全てことわった、と聞いてる。(表向きは理由統一教会の取材～悪用を防止するため)
 - ・ 左派は山本を進議員(発言権あり)にすることを12午前までに常議員会に提案する方針は了承していたが、Pについては困惑し、無方針であった。
 - ・ 左派中の巧妙な策謀者は、PをEと進議員として提案させ、当然否決されるだろうから、合法的にPを排除し、かつ表向きは、排除するイケル～投票に反対するアリバイを残そうとしていた。(後で次第に判明)
 - ・ Pは教団の存在を、正→進議員の区別を認めず「法外」～通用する概念でたてがもうとした。
 - ・ 知的な方法の応用～(とくに許けし)
=山以上の



午前9時前 P～山本の会議場に到着すると、受付責任者の乙増の防犯隊風の青年らと交り立ち小田原、山本を通過し、Pを止す。Pが乙増に傍聴要求書を出す。奥にある常議員会へ。

「今日は傍聴という制度自体がない」とくり返す。Pが、とくに「昨日、過～後宮に、傍聴について今日の会議の中でとりあげてほしい、とイテ表示してゐる」と傍聴証言すると、反側(表)にヨウの乙増は、少しヒルんで、「一応、この紙片をとどけてく」と

↓
(10.2喜上会場に一大幹事、教団の財政担当である)

とって奥へ去る。巨額の防犯隊風の青年らは、Pを止すまま、9時すぎ、小田原に泊まっていたスガハ、小田原常議員会に出るため入る。P～Eをキョウとする。一方も一応中をこいて倉庫と似た所で、Pは近くへすにすわり、先行して乙増を通過して傍聴要求書を出してゐることを伝える。かからは、ほとんど立ち止るに、表、どうですか、と去っていく。

正午~1時 寺村の演説は、三々五々歩いて寺村館にまわす。
 (以後、寺村、会場の時間にはこの行状をくりかえし、その間に、Pがマフ
 冷したり、次の作戦をぬたりするらしい。)

次にいしたのち、Pの演説については、鷲山(7/1東京教区斗争の際、右派
 の本。その後、神奈川教区に移り、大阪の市川と共、右派の福音主教会
 連合の運動の中心とす。)が強硬に反対した。表決で13-11
 (賛) (反)

進捗として 谷村と小田倉から
 ↓ 山本も尋ねるが、それ以上、寺村を認めない。
 (拙者が支給した) 約5人の会場は全て指定してある。(10ペ→
 の図参照)

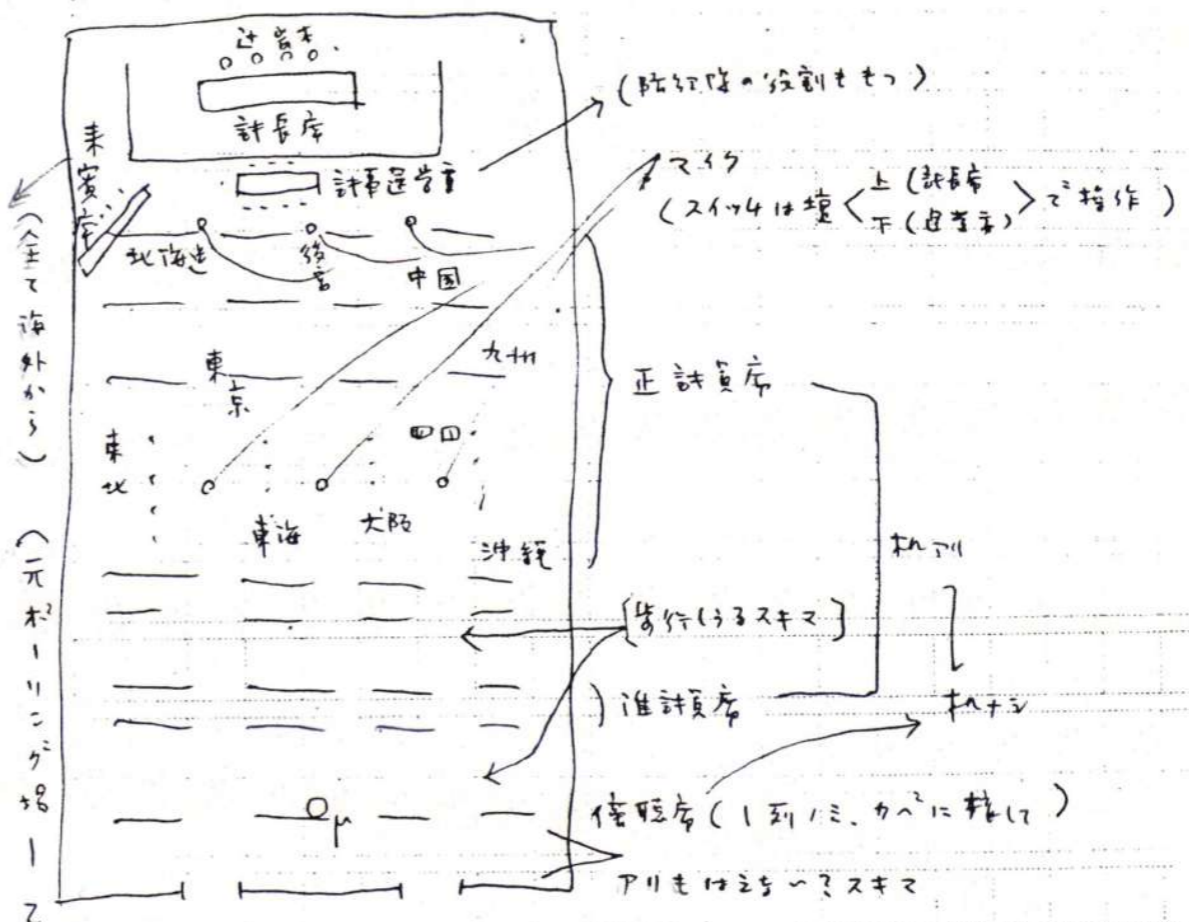
1時半 向会 拙者が美香は指定席の入江(九州)
 2時半 礼拝~祈りのエピソードと短くあり、P~は口で述べたこと、寺村、
 2時半

議長報告(後者が演壇を下りて、下の会場にマイクで2年間の経過~テー
 マをかたると、議長席には副議長が居る)

↓ 全向の長びき、演説をセリハヒトの演説、会場は白々してゆく。

↓ テーマに2つ、発言を認めると、テーマ
 ↑ 美香順に 命断と、居肉
 ↓ 日程のくみかた
 ワークデイで不便

三星塔教会の除名問題(詳細不明)
 ↑ 千葉支教区
 新報の故郷新聞
 陪席-マシハのイワ(右派から)
 ↓ 大拍子
 財政問題へのムキを批判(スガ沢) ← (正し!)
 ↓ 寺村は、これを媒介する共同性へ情報公開が重要(北海道の人)



Pが演壇に、時々乙種か乙種にわってきて、「どうですか、感想は？」
 ときく。Pが文藝的に演説して、「H-マズ-マズの〈魔の山〉とか、
 宗派聖蹟の〈ビジテリアル大学〉をよかつたか？ 寺村との関連は？
 ~之ますか...。と、明らかなローバイルマ、「エッ？ うーん、そ
 うですか」として去り、二度と来なくする。少しは寺村の防犯隊のカンシ。

↓ 寺村の向に、TVキヨの才1次投票あり、議長席の向に、寺村に座す。
 ↓ 上位6人の名が発表、少しは寺村に
 (アハエオ) 寺村は寺村
 寺村は寺村
 寺村は寺村

6~7時 会事
7~9時 用事

Mの考えていたこと
(存在するた42)

<非>信徒の代表として、総会に凡そ
出た20人位

M発言を必要とする条件の未成立

(判定にうつてモ!)

総会の議場に入るものに配布される議案が山本氏の
不合格に当たっていることが判明!

議長報告の中に、検定試内題があるため、この
質問を保留して、何らかの提題として不くへてと
Mは以前から山本-高橋、~に提題して来たこと

言語、選挙委員長のくわしい報告
10.20に回答を約束した

11.5文の不合格を批判
(どうも配列、その水準)

11.12
11.10投票文

目録のせいで視野が
狭い。15年性アテ
に気付けるといふ。

この自体は、何か之目をつけに本質的を提題を言っているが、
山本への産物に目をくらまして山本の人を、激しいアテへの期待を
抱いて不満な。拍手を、むしろ高橋が、身振り~言葉使の
批判をくりかえすと、左派から大きな拍手が起きる。)

とつてモ、片手40 20~人

議長団は60~100の議案を流し作業的に片付けてく。少し訂正すると
せしめの中に
議長団が
決定にうつては
(官僚としての辻褄の能力が乏し。) 訂正が
13日に訂正する=とに53。 左右をとりあてて決定して。 訂正が

議長、
第1次会議に各々の出た6人が壇上であつて、第2次会議は不十分。
開票の結果

| | | | | | |
|----------|-------------------|----|----------------------|----|---|
| 後宮 | 鷲山 | 笠原 | 出口 | 辻 | 小島 |
| 155 | 48 | 39 | 22 | 12 | 9 |
| 中道 左派 | 右派連合として このとき青森 | | (左) 票を後宮に あつた。 | | (右) クリスマスには 判定会議合戦の 新牧師と! 主張して。 |

当てること~この場で通40に後で。

10時 閉会
当てること施設へ、70に入る。

11時
12時
1時

12時 大広間で、助の常任委員の選挙
(小バ+3個の722と)

各人の自己紹介の時にM
<非>信徒を代表して傍聴している
松下です。と、たまたま相手。
これに影響を及ぼす、選挙は
「振津宮田教会の非信徒です」といふ。
「牧師は信徒の中からは出ないか?」と、或能の知人がいきなり出て
自らの笑いが起きる。小田原が近づいて、ウイスキーを注いでくれたので
かみか東宮教区選挙(7/15)の公判を一票で中断した理由を質問し、論争。
「批判的。生活が大仰」←「京教区が回家権を主張した。あつては
「東京で〜池田信士と〜(つにやつてゐる) (!) 教区や生活のイミと把握して。」

大段、鞍田内題
 ↑
 「東京の山本屋と山本屋」 (!)
 (10-16巻現くわす) 13
 ↑ 山本、三好、沖山、(3) 橋本
 ↑ 山本 <5に2000人ある>

小部屋 (5人ずつ) でわかれすると 11 村化 (元、兵庫地区、山手計等川
 地区、橋本、三好、沖山、(3) 橋本)
 ↓ 学生による教団史研究の
 の代表 (カンパは
 今もあつてゐる)

「よくだの言葉は、人にコミュニケートする事なし。」
 ↑
 ころ〜月報と合して
 もっと、人に近づくと「話せ」等々〜
 判りやすく
 た刊された山本屋「よくぞ、会場で見本を見せてくれた」といったこと。
 5ノ悪を7ノイ氣に導くが、山本止務。

色彩以前の幸福として、山本屋言て「
 ↑
 色を創り出すのは、総体の肉体的性」

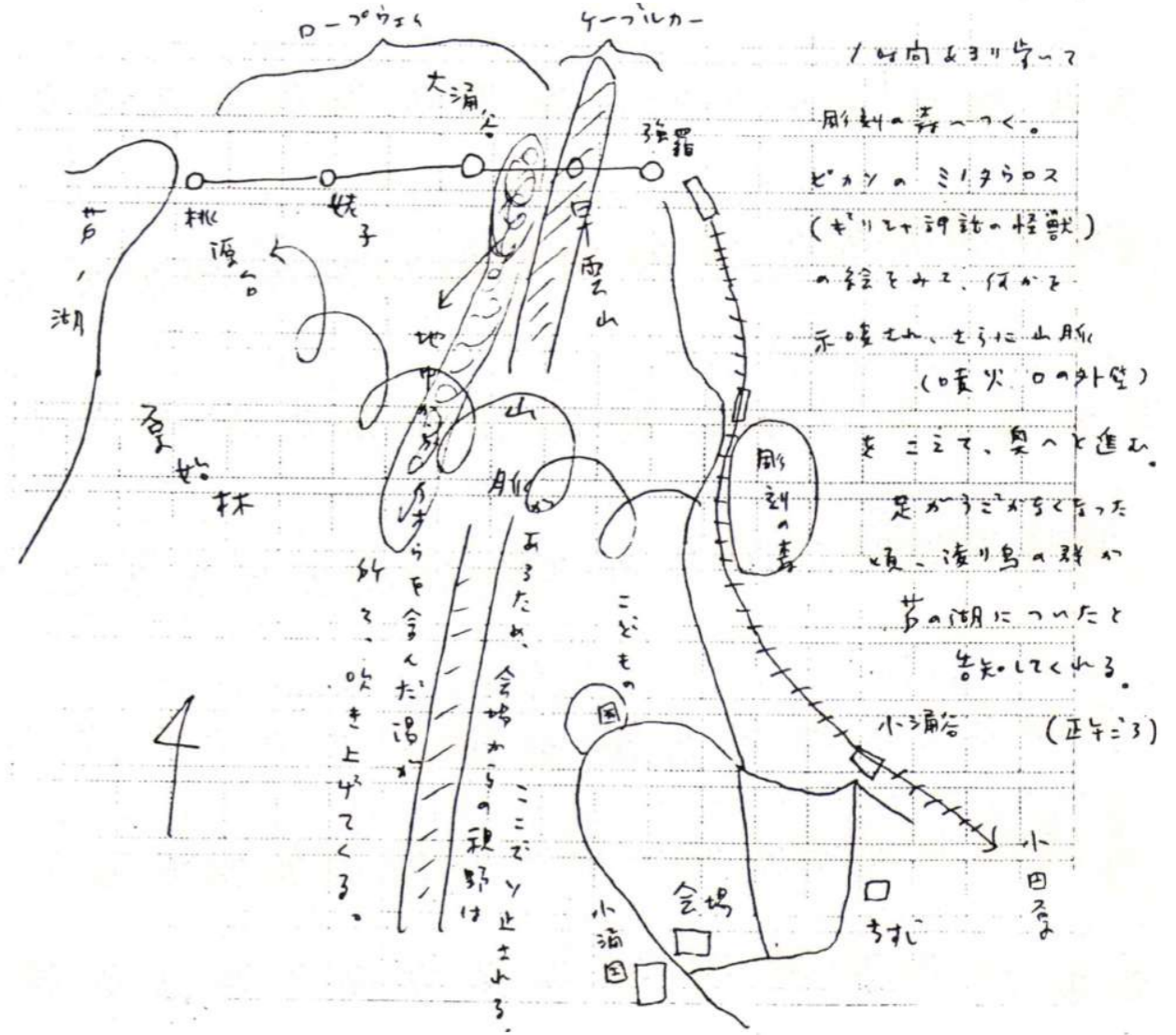
(戒能屋へくさる)
 ↑
 共同性 { 田舎(2) 教会(1) } の中で 2〜重に表現が弯曲してゆくこと
 の自覚をもち、この2〜重に表現が彎曲してゆくこと
 戒能屋に
 (X) 詩体以 (Y) 詩体と考へる射程の種々様々またと〜と
 宗動素として矢張りてはするが、と〜と 大き〜とつづく。(理科系人?)
 (沖山屋も、これ以後、山本止務)
 ~すれども、せしむるにうつつを抜かす左派のなすれども。

20年3月 眼子 (三好、(3) 橋本、他へやあし、もどつて、すぐ眼子)
 2人の中で、山本の叙述は、基本的にこれと十分異なつた、よすれども
 教団を解体するにうかせた、新撰の風景の果てをかくはん〜してあし
 (自境) 六甲へまどい、と思ふ。身体はともかく、あつたけけしい。
 ↓
 14~15 の高きがいの即通 (皆く全くしてゐる)

11.13

朝 9時前、会場まで皆と一丁に歩く便乗して、このまゝ、前を
 通りすぎ、新撰の奥へ向かう。(山本屋にのみ、このまゝの中へ
 に執望したため、このまゝ外を歩かなくてはならぬ。と〜と残す。)

{ 及び、左右を内山する人が、と〜とへ行く、ていふか? }
 と内山、山本の注目と改訂とあつたことにはなる。



湖畔に人が多く、火山岩の向に冷たい水が流れてくる。水に身を沈め、泳ぐと水の中に「浮遊」した。そのとき頭部を水に入れ、呼吸、この世界の外へ飛翔。ゆっくりと水が流れて、砂の上を歩く。

から松の林から母娘がこぼれ落ちてくる。投身自殺ではなかったと知って、一安心しつつも、未知なるものをみた直観から立ち去る。 (こゝまでが11.19 12月 1日 14時 15分 Tel. あり)

湖にたどりつくまでは、〈非〉信託として、宗教者たちの中にただ一人存在して「黙る」し、鏡の中を覗いてみた。 (自由には自由な〈設法〉) 湖から出てくると、そのイミエ周りに「黙る」を生理的に受け止めてくると気が付いた。

しかし、動物、植物、人間 (こゝでの困難さの増大) と広がり、火山の南麓園の中で、自分の存在を表現の極度に圧迫される生理的「ケレト」が得られ、そのイミエ周りは、コッパの中を歩く、コッパを手に取り「ケレト」を過剰に表現してゆく。その山(かき)と思いつく。空腹で、山を下るために、桃源台の食堂で、まずのスパゲッティを食べる。

(朝鮮語の会話) この東洋的イメージの閉鎖性、近頃には「ケレト」二人の朝鮮人の男女がきて、手まねを合せて、ロープウェイを降りて小田原に出た。その後、Pもふくめて3人で降りた。けいこは、自分たちの字を揃って行くと、Pにカキを渡す。日本語で「あへ」

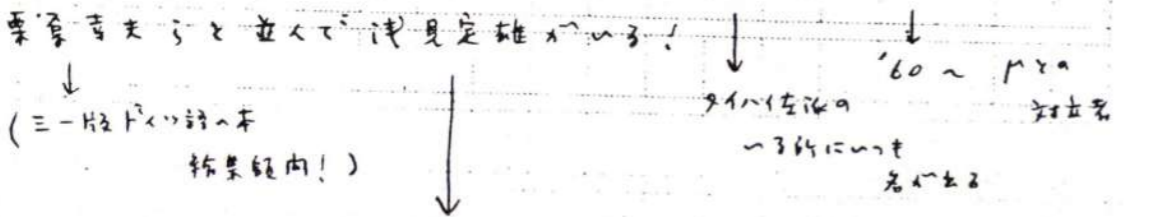
ロープウェイは、ふと「ケレト」が熱地帯の上を30分移動し、終点につく。電車に乗ると、一本の道を南へ。 (こゝには「ケレト」で強羅へ) (すゝと午を歩いてくる。日本人が、こゝをこゝにしている。)

その中心では、また決断がつかず、こゝまで、すすむ旅館へもどり、おいてある荷物をもちて下山しようとする。とこころ、その気持ちによって、かえって状況をおさつてゆくようにもつた。すすむと会場へ別れる道へとこころ。 (こゝ) やすい! とお叫び。 (会場はたまたま) [10.30迄〜に於いて「ケレト」の伏線] による大きな水車の下で次の発言要求書を作成。(コピーと山す)

議長団 } 御中
議事運営委員会 }
教解検定試験問題について、当事者として発言したもので、許可をいただくとお願ひします。
また傍聴(実質は証人等(参考人))としての発言を認める意味を議場に説明する、その意見表明を会場議場の意見として下さる。
84.11.13 松下 昇 (印)

註、~~~~印の部分は、法廷、国会、〜でも応用可能な概念である。
・〈非〉信託性への問題に付いて、正午の〈受託〉を告知するつもりであった。

3時半に3
会場につくと、タイハイレ印の空気がかきこえた。Pの準備は約1時間
常設展のセレクトも終わったためである。結果は不明であり、
内心もさうである。ロビーにたたずくと、ロビーの一角の、
立ててあった所に『レバノン戦争と豪族の遺品展』をやっている
のに気づく。受付に山本が来ておられるので、さくと、小田原、谷村に
いきかかっているのだ。トイレ〜エレベーター中、ルスバレをたのめ
ているとのこと。10時を過ぎると、企画主体の中心はパレスナ。
ユダヤ人内証研究会で、顧問として、加藤登紀子、ひいたまも、
栗原喜夫さんと並んで浅見定雄がいます！

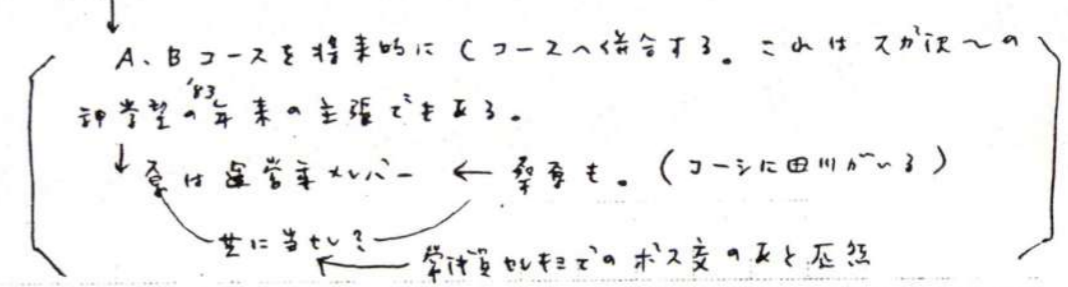


小山を案内する会に、小田原、谷村が一緒に来て
小山を案内し始めるわけである。同時に10:30の
判定会場の準備も、小山が高橋にすくと玄関から
ついでに話し合っていたはず、Pは一定の誠意を
示さずとさかして来たが逆であった。つまり、高橋の批判
を牛玉にとめる自信があったからだ！ (浅見には)

Pも山本と一緒に準備していると、Pも企画主体と思っただ
人々の話し合ったり、パレつをめぐって行ったりする。

そのうち、小田原、高橋、谷村が来てきて、Pをめぐると
とした方に、「企画主体とすりよって代金を占拠された！」と笑
う。(小田原) 気がまいたセリフのつぎは、眼は笑っている。

高橋はPに、13時7~10時に判定の件が議題に予定されていたが
他の議題との関係で切りかえられた。準備から準備とに打診して
いる。準備は、議題の多数は判定を認めるだろうと安心しているため、撤回
など全く念頭にない。Pと高橋の判定はマズかった、と言、返答し
つつ、改革案(すでに印刷済み)を公表すれば大丈夫とアツている。



自分もできるだけかかればよかった、これが限度だ。こういふ、切りか
えられた時間内でもうかきこえる(!)、判定書の10:30の時刻にきつくと回答を
高橋、谷村がカッコよく批判してさうである(!)がすりた。山本さんの
発言は滑ったはずだ。(12時の自己紹介の時に「今日は出席
がなかったが、明日は初デビュ-です。」とへ、かつさへ滑った。)
進行員として

高橋は、やつれ印、それをも、たまたまの果てのやつれ、といふ様子、
左派内の力関係にとらえられた渡山、をPにみていること
への屈折がある。小田原、谷村も視線をそらせたまま、高橋の依り
をうかがっている。

Pが、発言要求書を取り出して、みせると(山本も注目して)
一瞬、目が答をみる。

小田原「何か、せりふのたのしみですか？」
P「とくにない、むしろ個人的には、発言は苦痛だが、このまま沈黙して
いるのは、もっと苦痛だ。」

「発言要求書をいつ、いつに提出したか、(もし、小田君への
 プレバにマイナスの影響があるなら、しついでにもう、とせよへっつ)
 きくと、小田君は視線をそらして (本意であつた)
 「いや... 別に...、なし...」をくり返すのみ。

「では、もう少し考へて決めます。提出するとしても自分でやる。
 といふ。
 (高橋の「小田君は学部長だから
 出しやうではないか?」と一度、助舟舟を去したか
 小田君は、「... 他人のしついでか...」と云々。)

↑
 高橋、又一度、~

小田君、言はせは、石山たたく、と二かへ去る。
 高橋、() まで、之をリキアツに、小田君に、しついでに行かせる。
 (10-30にきた人)
 高橋()
 夫は小田君、すぐ生けに背中を叩いて(!)
 立ちまきしてゐたが、会話不可能。

「元時間通りに(二日目には) 講場に入ると、(↓) 椅子を、近くに移動
 台湾のキリスト教組織との協約に、多数で可決された所であつた。

↓
 未定として出席してゐた代表者が壇上で後堂と握手。
 ↓
 返さつたはしきりか、これは
 α返り、ハツカ42が返をたふ
 語らず、満場をうらまひしてゐる。

戒能の、同、時に「元が可なり、これはどうに「帰、マシヤ」と思つて
 いた。」といふ。台湾に育ち、戦争責任をもつ牧師を父とするのは
 は、元、魚給で教団本部で台湾へのテーマにとりかみ、今日の

協約成立に最深处でかかつてきた。その小田は、協約成立可決の時に
 殆ど感動の色をみせず、むしろムシして「と語り続けたのは感動的であつた。
 「発言要求書をみせると、一瞬に了解して、「もう
 ホス交で判定承認がきりかたてゐます。私は思ひて、上にも上
 です。しかし私の立場から、今日は反対の発言へ行動はしにく。

(私のために) やつて下さい。」といふ、そつてリラックスしたが、
 さらに、「日本のキリスト教は、国家内の対立が進む前には、相
 手国のキリスト教と対立し、国家間の相互利用が可能になると、
 その前に ↓ と仲よくした。約十年間をうたつた。この極

るべき習性を転倒するたみに、私は、日本←新中四の接近
 により見捨てられてゐる台湾のテーマとリキアツせ、協約を實現
 させた。(この事実性を膨大な資料から整理し、再作成し)

これは、先述の習性の時間性を転倒する、さういふ試みです。
 私は協約に賛成した人々と信じてゐる。とに気が付いた人と
 たけ共闘します。二人をこゝをいふは、今日は「キツてア...」といふ。

「元全てを了解した。小田はうしろ向きに出でいく。
 ↓
 (の作成した心づて 1,200円)

↑
 元
 おお、東洋大全を
 を含む、少数の人に
 プレバに送ら
 行つたのであつた。
 (後で想像)

「さし上つた人の全二人に贈呈し、といつて
 います。」といふ。元、善改論(←モサケ)が
 かも了解する、といふ、山本氏と共同署名する
 といふ。

6~7時 休憩時に何か大きくこらえてくる気配が感じられた。

あとでふりかえると、このあたり ~1~時間の

・前半では、P提議 (元首相の直観が、6時に議長団の休憩を宣言し、正議員はあちこちと立ち上り、Pのまわりのカンシがゆるんだときをみて、Pは会場の最下等席から最上等席へずいぶん移動し、議事運営から議長団に、発言要求書の紙片を提出した。)の提議をめぐって舞合の動きが引きか

かり、^{小口派}発言者、^{小口派}「あつちく夕食に染とせす」の思ひがかり、^{小口派}友人張した発言に、議長団は教師検定案テーマの討論時間を7時再開直後から9時まで、と内諾せざるをえなかった変化があり、

・後半では議長団の内部で、いや、それです、と政治的に、時間を叩く、時間超過の場合は、一気に可決に持ちこた方がよ、と、いま逆の方向に進行する変化があったと思われ、

(おとこに 三行 ~ 学議員のレベルが終つてゐるから、ありに 判定承認を強行し、^{小口派}少数派から批判をうけるにいたる、それは甘くしてうや、かれは利益のあこぼれを承知している。) (おとこ ~ 金)

すすい派の内外で、この動きを思ひくが漏れつつある時、Pは下にたがひさうこの夕食で、何れも各自発言を求め、6時に 発言要求書を提出したと、正午に〈沈黙〉をふりかへてゐることを語った。(浮〜沈黙...)

すすい派 20~名は、Pの動きをどうのよりに自分のイかに対応させてゆかせるのが、困惑して会場へ向つた。途中で高橋氏は車掌の第一セルの発言〜古跡をどう媒介させてPに打診してきたので、Pは「自分としては、発言者はす〜とあとの方と木交絡してゐる。時間を合致し、Pの〜た〜ことかたかかによって発言せぬのは、発言禁止の枠を突破した場合は〈黙言〉したに似た、と、これは、その上全く技術的にうやとて (と、いふ、うやと、さるEと、いふ、イかにして)、答付は〜と

と、さる。しかし、閉会中にE-15に響いてゐる神山氏が戒能氏は、〈中にまがへあふ〜たつ〉の一言 (こらやアピ〜ルから最も遠い人向を最前線に押し出してしつと残存力) を思ひ浮かべてゐたこと、後で判つた。山本氏「本部の記録を調べて判定して...」Pはいや、さるこら、いふまでさる。

7時前に会場へ入ると、すくなく議長団の視線が最後部Pに集中してくる。Pはあえて立ち上り、視やすくしてやる。

再開。すすい派は再開後の冒頭から判定のテーマに入る。こらE P提議のとりに上り、さるこら予期して、身をたたくしてゐたが、思ひがかり、議長席の辺は、「〜6時の議案にこら〜くが論議が残つてゐる、7~8時は二水に返す、8時から8時半までを判定問題に戻す、時間内に論議をつくした〜」と早口でまくし立てた。虚をうか、たいてく 判定承認!

すすい派を除いて、拍手あつた。さ「多数が賛成と認め、このやり方

ヒミツ判定を迫った時に拒否すべきであった。戦時中は弾圧に屈して
信仰を捨てた者を批判する長谷太のヒミツ判定に一人でも反対し
たことだけは、[←]資格は無い。長谷太の信仰はどの程度なのか
と疑った。

我ながら、中央マインをうかがう。参考としよう。迂回するに
ヒミツ判定の日時、方法をくわしく (Tel. 対話のアイディア) 考え
ついで、規則を反て反り可能性を立証した。

↓
(水島自身、何かの提言を以て断るべきことを覚悟して!)

会場の前にはいた。いたる所までささき〜の始まり。これは
会場内部のみならず、外部へ拡がって行った。いつ南会の宣言が
あったのか、Pは(知って、たか)知らる。(本館には不可能)

Pは一人でもうすいへる道を歩いた。後から追いついた三好女が
いたかどうかに、中央マイン周辺^(近所)の同様のことを知らされた。

Pは、ああ、あなたは逆転に寄って下さる、という、おとす〜
Pを助けた。神山女が逆転した事を知った長谷太は、おとす〜
と一言。

まず、旅館で20に入り、何かたにきかて店員へいくと、Pが外
へ、ほいといせりおま、うらむてすおてる。

大阪の女性(田村)の、学評長をレキヨで警察女が70年まで1位
当選した(次は評長?)、と景気が4時とすか、たかま〜
〜。むしろ警察女(一定、はじりいももった人としてあつて、
13朝、Pと70とすか、た時、「お涙がでいけ、ミヤ総会
を〜人に与、と」声がかけていり。)の方、話題をいす切つて、
「判定承認を〜14にさせたいことは、今日の経過で判った。

しかし、松下さんへうこせが、もう一つ判る〜、という。

P: 私は何かを主張したくて中央マインを組織したのだけさ。

この総会に来てい〜金2万、昔年、おの一時に、私を介して
『報上臨時判定は村和隆導入に匹敵する!』と叫びつたのだ。

今、この方向へ向かひは? 私はこう語らたた3分。

- ① 70 重研大、② 万博キリスト教館、③ 171 車庫野区総会 (本音と支離、おとす〜)

①、②に〜総会にて自己批判決議し、③を〜つた。

私は〜70〜争争の被組合者〜被告に、この決議を評議
した。

私を扱かにうり語らた大学当局で〜之も(ヒミツ学外遊七合計け
〜も) Tel. 〜に〜する判定はしつた。もしも、総会か、

〜を認めるべきは、大学当局で〜せよ、た暴発

〜を自分のせよ〜民間性内部の当該〜〜〜とす〜
〜と〜認める〜と〜し〜、①、②、〜の決議を〜

〜が〜根拠が〜い〜に〜、しかし〜自覚に、
〜後、私の判定を認めるのは、たんに今回の教団の〜

〜として〜、〜70〜位相の全特選格〜、しかし〜今日<決
〜に〜か〜た主体として〜、14〜15の審判の〜

(全員が〜、しかし〜力才は上り、何かの不信は〜
おぼろげ〜酒〜を〜た〜、明日〜一段と〜

〜これ14の判定不可能性は〜的に実現した、と思つて

(この一方向は、検査委員の決意のその)

承認

私は自分の入りに付)

戒厳令の上では、一し、かれは元・専断大会委員の人々へ
 泊って行く。(山本4は、2=1) ↓
 紹介した人、
 別々(2=3) 外資のりに 総会にまた入
 に拘束。 ばかり

情報ってきた時に、トビに入り取って行く。

天
 専断大会委員の人々は、このも根拠的貨向をして、トビを答
 (とりかき 13) 正午〜夜(全存在形式)のトビを信じて、といった。

「私達は、総会で、一ことを見せず、一度も拍手できなかったが、
 と山本、私と共に、あまりにも深く共感したためです。」

トビは

全委員運動における唯一の解散宣言をしたが、このトビの
 の訂正化は、15〜4の深くて世界史性をもち、と入った。

かれらは、トビに集会するで、草刈と含む全セクト、土倫宗教と
 合和全宗教、運動を斗争へ生活とく、たか、と、うらと
 ことかたとう、何かにホッか、う、う、と、く、り、道、し、た、た、た。

少しおもしろいのは、かれら、
 主に、⁽²⁼³⁾ 対して、⁽²⁼³⁾ 押しがたい、思、い、た、か、170〜の、トビ、を、
 きた、と、う、と、で、何、が、い、ま、あ、る、か、と、思、っ、て、た、か、た、う、た、。今、口、で、
 と、い、う、か、明、か、に、し、り、ホ、ッ、と、し、て、い、る、と、語、っ、た、時、で、あ、る、。

少し、ハッとしたのは、かれら、
 進んで、と、う、と、で、い、る、斗、争、を、し、た、い、と、う、と、い、う、た、時、で、あ、る、。

これに対して、トビは、
 する人々、本質的に、共産党と思われ、また、と、う、と、は、い、る、。

私の委員会は、つねに、また、会、た、こと、を、い、る、を、い、や、会、う、こと、の
 去、り、者、で、あ、る、(神、戸、地、下、の、{ 最終意見陳述 } と、い、参、照)、

かれらは、何かに深くうたか、沈黙した。

----- 朝、か、近、く、つ、た、あ、る、。

註

・ 当然のことながら、この22×12断片のトビ断片である。

・ No. 1 ~ 4

① ~ ④ ~

12 11. 16 11

No. 5 ~ 30

12 11. 19 11 作成した

・ 全ての断片(中心に<非>断片)の22×12である。

①

11.14

朝 7時に目覚め、7時に入り、そのまゝ出立しようとする、山本氏(山本)が
おそくまで玄関まで送って来る。

朝食の代りに、Fのせせぎすの水をのみ、腹へ。小田原市内の高校へ
行く人々と一緒に、はじめて日にてきたアルカス風の峡谷を眺める。

小田原駅で新幹線に乗りかえて、一丁たけ空いてる席に身体を埋め、
いたすし眠る。

午後1時^(2時?) 新大塚 ~ 後志橋へ出て、衣類 ~ E コイル、ロッカーに預け、
レポートを上げて食事 ~ 3時過ぎのアルカスまで行くとするが、何もできず、

3時の迫り、エレベーターで地下に入り、地下街を歩いていると、突然
"Let it be, および ~ のせしめが流れてくる。後とおどろき止ま

ります。地下広場の中に、ひびきつぎつ倒れ、意識不明になる。
(おどろき、おどろき! ... といふささやきも聞かれた記憶がある。)

両子でひびきつぎつ移動していきながら、
天使の祝福のように

ふと急げくと、菅根崎警察署の地下入口である。両子でつけた
K官が、「何かあったのですか? 急がせて下さい。」といふ。Pは、

「あす1時に0高千1002号法廷に小山は判ります。」とたけうって、
よるまきつぎる。「何かは? 論議か? 各前-住の住?」の問には無視。

3時すぎ、東京法律事務所に行く、池上弁士、川澄弁士、永里氏、後本
氏、鈴木氏、これらと会って来る。

(Pと13とく同時)
(中居氏はカセのため、おくしとくる、とのこと)

7時 打ち合せ (永里、中居、後本の各証言、鈴木、山本の各証言、~)

②

7~8時 近くの中華料理店で食事して、断片的に11~14~を
語る。(全て断片的に表現して一位置につけて)

11.15 証言との関連で

言葉の生誕と終局の場について考えた。

中居氏と、川澄氏に

9.7 朝、号出稿 → <> 左端への過程で、^(P~H) ^(字裏に与へ) FF = けりて移動した。
9.6 夜、108分で教職員が「明日は全頁再版を一掃する」とたけきた。
(このおどろきに高層に相乗した証言はLの。) (不自然)

と語ったことを報告に、このおどろきに語ること、15証言のすしめが
Nにといふ<証言>である、とPが指摘。(年は全<信じている>
と自らしたかった。)

Pと永里氏、Nと山本は六月へ。鈴木氏と、後本氏は京都へ。

11.15 (雨) ^(10時半)

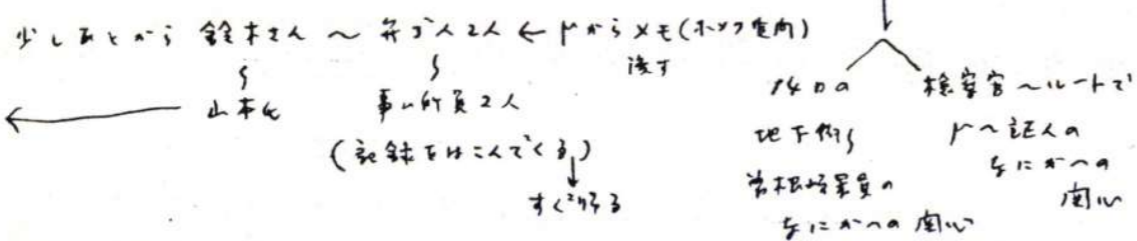
学生センターへの道を歩いていると、K大A430号まで来た ^(永里氏) ^(N氏)
いしがささやき。
(南北に送るに資料を表現の消去)
で少し打ち合せ。

Nと山本: 生きた言葉がでてくる。このまゝ証言すると、全ての証人の証言
の信憑性がくたがえられ、証言はやめた。(!)

P: 山本は+と文。(根拠はPの口から、直ちに証人採用取消とすべきに)
山本とPへの全公開過程の肉体的な切断であった。むしろ、やめた
情景と契機として、このおどろき<証言>をも自由に展開せよ。全ての
Pまで止めておく。(最終判例は0高千到着台にする、といふ。)

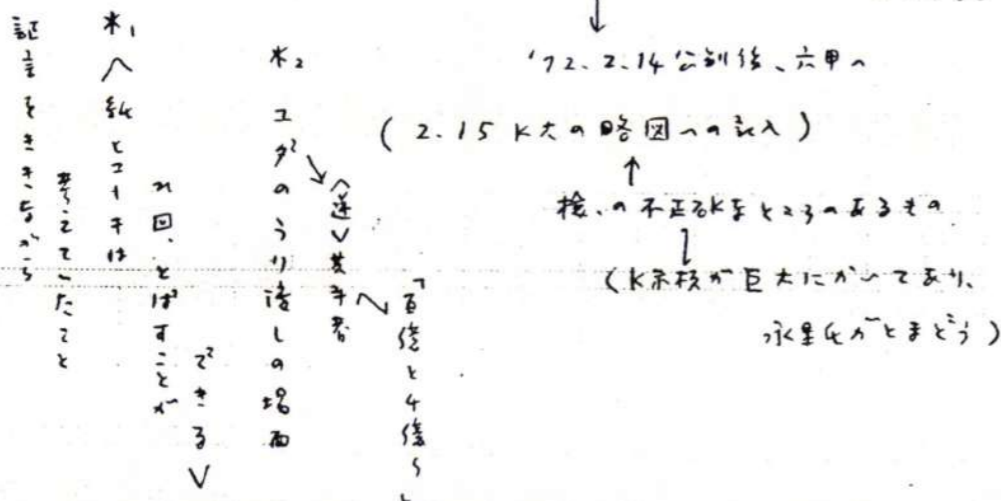
③

陽気〜30℃〜2℃ 午前11時半〜3時の高木へ。地下の倉庫で倉庫に2人
正午に1002号法外に到着。すくは浪本と私服警官1〜2名くら。



1:10 肉店
永里、中尾の人定〜宣誓 → 浪本は法外
(同時に、口頭で証人申請された)

1:15 永里証言
主要肉(川澄) → '69.4.28 神経痛の被害者 → 検査官に
メモす。



2:01
証人: 人証に希望というものがあつた...
主要肉(池上) → 卵さうろ行番(下)とさう行番(坂がのりた〜)の肉連
(あとで坂がきいて転倒されるKFFとされた。)

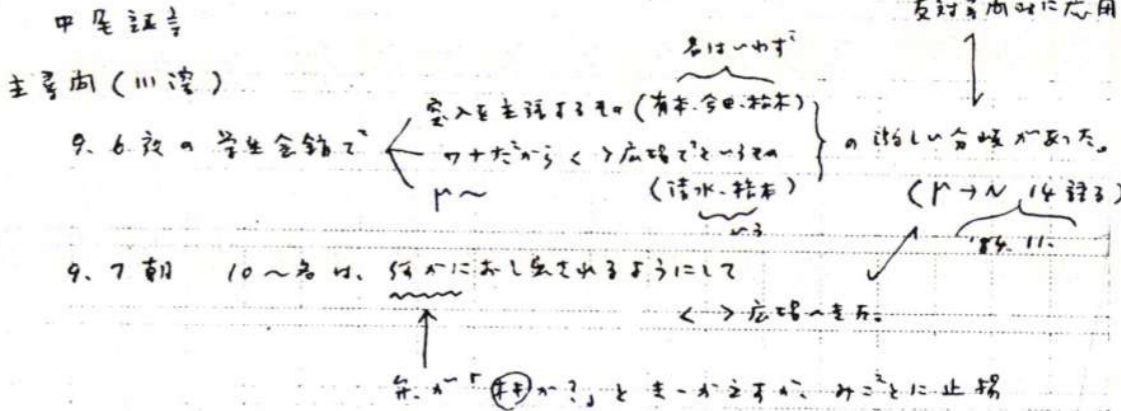
2:04
反対尋問(松) → 2.15年争(下モ〜坂がのりた)に参加したか?
→ 黙ります。(=水に別現実感が浮化した!)
証言

④

たまたま〜をみつけたと〜が、教職員に警官に通報する時はして〜した3?

→ この方向に(と暗黙的に首を左右に回転させて)していた。
(武送の極意!)

2:12
2:27



1122付付送の教職員へ → 9.6夜10時頃の話
自分もかき止、拘束されたが
P=109 → 50の水道で水をとった時に教職員が
空村においたカバ〜が書類をいって中へ投げて来た。
よりこの空村においた。(教職員が)
空村に登るとし、学生〜がおしよつた。
(自力では登らな) ← 下が〜

3:26
主要肉(池上) ← 証人: 自合にとつた補助とは何か、今も考えている。
3:28
主要肉(池上) ← 証人: 5.44〜45に北大にきていたことを知っている。
→ Xを通りきって成功!

⑤

反対尋問(検)

44中Eについてと→の、被告たを被告人か?

↓
「A」として→
検
「は+せ」信用性を
信じている証拠

9.7号重について、vくつがきくか、うまく切り抜ける。

9.6夜にワナの話をきいて、なぜ「伝之子」かたか?

← 訂正の場には、伝之子を書き留められてはなかった。(*)

9.7に→の「客」の「後本証言時に傍聴していたか?」 → うん。

(山本、佐々木)

3:50

本(左) 写のPが手に持っている白紙の紙は→は5か? → 5か?と思ふ。

(パンカ4!)

本(右) カバンの4つは? → 1だけだった。

4:06

検. Pの前に証拠品も息が合ったか? → は。

4:11

写について、7つ外は大きく、本結する室内

池上

a. 森川、室内の判決コピー提出

b. 山本、鈴木の証拠提出(して5つ、コピーは3に)

↓ 証言台にのせて、存在感を示す。

c. 9.7の被告人側号重(N証言中にPがせ、弁の席にきた)

↓ K大との自主性で退席をみているのに、14夜には弁は

すっかり忘れた。

d. 「後本証人E 3~5合して→次回に。

あつがきして→4かとせ。(検、たがき→
仕方なく認め)

この順序で認めさせて→「抜群のセリ」をPから池上台にホメた。

~d. さらにe、fを

⑥

e. 「P控り証言本文書に→して、v3~3#2のP取って、一応

押送と→してはし。

(Pに2x→7~14討議)

弁、A取って→に圧倒した。弁、も「→して、→は...」

と認めた!

f. K大への照会は→して→か? (弁、の→、→) 答Eき→)

弁、かきもTel.して→→... (と向を→、弁、も→→)

弁、かきもTel.して→→。 「同じ内合→も意味→→

→→。」(弁?)

↑ Pが弁へ、用紙台に

「もし、たがき→→→?」

「(筆)長→。」(弁)

↑ 前回の文書に→子内合→の→台

(10.23公判調書)

↑ 弁、かきの請求書の→訂正→

↓ '69.9.1検、用紙の→→

示す評評会証筆録の留置品

→→、K大の当然、公66に

所持して→(→)も。

↑ (本当は+イ!)

本: 次回 12.6↑ 1~4時

(検、交代→!)

池上

4:18

全員で→の→茶店へ

弁は2人と→4時→ <仕事>→→に、5時近くまで→。

↓ 14夜2人で→→→。

↑ 池上

↑ 指

↑ 矢

池上は朝→→、→→→。

↑ 感心して→

↑ →→。

a~fか→、→に最上の→→→。

(Pに→→→)

↑ →。

[11.21 3~6時 Pと筆→→→の約束]

10.23にも行った赤十字の店に<>杯!

5時半
6時半 赤十字会
7時半

大
テープ断片: 東アフリカ反日武装戦線
NKKKの酒→コビ-2元説
その他にあり
おてて記憶に手〜記述不可能

← 11.15
鈴木は喜郎へ... Pは6甲へ
中屋. 説本は新太郎〜

補充:
14~15の2年性の苦しみが過ぎた暗い夜をかくとくして来た。
中屋 > 1枚の日記は、巨額の手紙(?)、本の金庫にあり合しては足らず。
永里 > 数冊中に現金が手紙で手送することになった。

池上は、その日記を返すか、「弁士には全部お返ししてよ」とい
Pへの言葉にす、かり感謝して来た。

また、改本の本質的医師性に心をなやめさせていた。

鈴木、山本 Pへ「今日、ここで、けしめて閉鎖します。」(法廷前)
法廷証言が現代文明の暴力性と対決しようとして。

11.15夜
山本へTel. (11.14 至道〜正かくにく) (辞書の合符を郵便で山本に
取力はカズミに)

11.16夜
根本へTel. (現金が主と改本の件〜)

11.17 A367へ

11.15夜に山本へかくにく〜考えたこと。

11.13夜に総会評議 中央又いつを占領してゐた時、P〜は存在
すること自体で何かと制限されたが、その充足感をもたが、
すが次〜は山本へ、Pを立往生させた責任がある。山本は
マイクをふりがまして、評議長をテロルへさせた、とつたが、Pは
Pは大笑した。(自分はやさしい...)

この日、日本キリスト教団の分會が、教団内左派の解体を指示した
〜。 (聖書水書〜Pの...)

山本へPが合意した〜の場、すが次〜は、山本の甲山への力
かりは犯罪的である。と糾弾し、他の左派も、たけらつ
この水書から出さないと〜。今後、必然的K種と〜、
自主世に総体が反撃〜止揚して〜かめは〜。

↓
言葉夫妻の閉鎖的若少の批判的解放
(山田) 山本へ
「黙る事」
〜の〜子〜子〜

判定の分會が、宗教の < 宗派 > 内山山つた。 (2度と〜
〜) 現段階の内在的転倒
この表現〜存在の全テープ... (2度と〜
〜) 判定の分會が、宗教の < 宗派 > 内山山つた。 (2度と〜
〜) 現段階の内在的転倒
ただし、< 不承不承 > にせよ、
教団として、その段階で
常設委員会再判定を要して
〜である。この〜は?

↓
ヒコとヒコ ファイル: マイク。〜

(安易にテープ、コピーを使用しない、何かのオチを〜爆発)

言葉

($\frac{2}{3}$ 過 - 7 - 2.1 の 補充)

No. 4

11 夜の会計で配布された山下のレポート

{ 小田原 - 程程は - 応酬する、その先がどうなる。
又が次 - 与せ<>つかわさうか? (10/16/65に)

No. 5

No. 6

山下(旅館)の宿泊料(食事等)は、7,000円であった!

最上のホテルで居る小田原の食事等は、どの位か?

二人分の総金もさう、ドヤ街〜河川敷〜占領空堀の等々、と

11 12夜〜に、11 対比に示唆してゐる。

↓
「迷惑に与る。葉子に人にとり、これより、30%が必要、(!)
↑
手に入れた人

No. 13

(2)
[22911-2] (三好、前島、坂本、山、山田)
5号

・ 5人ずつの部員リストは 高橋氏の作成

三好 同友社?

別紙2枚 (専大の9111-1)

中山 専大の70人学

中村? 専大?

日主の所記活動リスト教



・ 1/1村長に、天理教、創価学会、〜 の土倫宗教と云わしうる部員

員を一覧表のせいに熱心で取り上げられた。→ 戸長の子に送る

・ <カキ>の状況に對して 金沢唱のトレのベ-バ-を 何個自主に引いたか?

困った人が多かった。

(12頁)

No. 14

No. 15

No. 22

8月 → 8月半

8月半 9月 5-11月

(30台の持付子数)

・ 判定強行を免じた場合は (とくに、四国教区のみ) 11.18(日)に

水法

の期間

↓ 合格した教師の 親筆会の日付を<人2>とすることを

全体的に、74222は 11.5.26に送ることに

同意である。

No. 23

7~8月(半)の 7-20中には、宣教と社会活動に力を入れた 審判員

の 卒業 (卒業を中心) をめぐり 右派の批判があった。



低水準への

No. 24

・ 8行目 表決 → 票決

・ 11.14 の 冒頭で 又改定は、217の 2174 に 印を5つ 要求した;

13 に 傍聴者の 発言を禁止した 2 票 批判する 抗議文を 54上4した。

・ 中段 14夜 → 13夜

(11.20 山本氏に)

No. 25

'70~'75の又²次²の思想? Eは及くするたかに、宣教師の²次
Pに因りて資料Eが²集めて検討した形跡あり。
('80~'81に)

No. 26

No. 27

・ 过は「福音と世界」'84.10.2² 的教条に及たると山子父²
の²転向に示す。全²の反体制的キリスト教の²キ²レ²E²批判
してゐる。(我²能²は 10.31に、このキ²レ²E²批判(25)の²过²
を²キ²レ²E²の²过²批判は²不²生²と²い²う²正²しい²指²摘²を²して²ゐ²る。)

↓
11.14 0²レ²-2² / 原
我²能²の²过²に²及²び、
我²能²の²过²に²及²び、
世

No. 28

11.14 = 総会 → '85.1.17² 学²評²員²会²キ²レ²。指²定²率²は²(仕²期²E²に²及²び
ず²と²に²及²び²て²ゐ²る²た²り。 \downarrow 判²定²速²報²の²可²能²性²あり。

14 } 过²音²長²: 年²報²10²の²増²加²あり、再²検²訂²す。
後²音²長²: 増²加²を²不²し²て²す。

11.20 原 → 山²本²へ²Tel. 25に 西²宮²公²同²聖²堂²で²又²が²次². 尋²原²永²田²E²合²々²
会²議²に²提²議²(P²の²註²明²P) P²の²注²明²を²全²て²の²事²務²の²全²て²に²進²行²せ²る

山²本²へ²及²び
あ²ら²で²い²ふ。

No. 29

6 行²目 14 正²午² ~ → 13 正²午² ~

No. 30